

中等科・高等科

共生学

共生学担当 竿代誠二

共生学は、2021年度に新しいカリキュラムの一つとして始動した。共生学では、自由学園の掲げる共生共学の中の「人と人の共生」「人と自然との共生」「一人一人がかけがえのない存在であるという意味での共生」を「平和・人権・環境」という3つのキーワードに落とし込み、様々な授業を展開してきた。最初は講座のみから始まった共生学も、プロジェクト、飛び級社会人といったように、大きく広がりを見せている。本論では、共生学の目的と経緯、内容、今後の展望について述べる。

共生学とはなにか

共生学の狙いは、自分たちが幸せに生きられる社会に必要な課題は何かを見つけ、生徒自身の活動につなげていくことである。共生学と同じように新しいカリキュラムの一つとして探求の授業が始まったが、探求では生徒自身がやりたいことを学ぶのに対し、共生学では教員が生徒と一緒に学びたいことを実施する、というのが特徴の一つである。教員自身がこれからの社会を生きるために必要な課題意識を持ち、そのことを生徒と一緒に考えていくところから共生学はスタートする。そして、ただ知識を学ぶだけではなく、学んだ知識から実際に行動を起こし、プロジェクトを実施していくというのが次のステップとなる。このように共生学は、知識のインプットとアウトプットを繰り返して学んでいく授業である。次からは、共生学講座とプロジェクトについて具体的に述べる。

講座について

教員は、「平和・人権・環境」の3つのテーマの中から、自身の専門教科にとらわれず、得意な分野や興味のあるジャンルから自由にさまざまな講座を開講した。生徒はそれらの講座をグループごとにまわっていき、授業を受けた。この際のグループは男女別異学年のメンバーで構成した。授業は一方向の講義ではなく、生徒が主体的に学べるように双方向型で行われた。講座は受けるだけではなく、3つの講座を受講し終わると、シェアの時間もたれ、別の講座を学んだ別のグループの生徒たちとお互いにプレゼンテーションをしながら、それぞれで得たことを共有した。このことにより、講座の半分は実際に受講し、残りの半分は他のグループの生徒からの発表で内容を知るといったスタイル

となった。

以下は、実際に開講された講座である。

【2021年度】

- ・私たちの未来の生活 Our life in the future
- ・子どもの権利とは？－子どもの権利条約に基づく日本社会の考察－
- ・歴史社会学の特別授業
- ・君の100円が世界を変える
- ・分断から共助の社会へ～自由学園×学園町～
- ・讚美歌に親しむ
- ・元牛飼いの真野と考える原発問題
- ・反コミュニケーション入門 1.01
- ・音楽の中の平和
- ・繊維を植物で染めよう
- ・身近なところから人権を考える
- ・いつまで続く？地球との共生
- ・私の「おいしい」は誰かの「あぶない」
- ・平和をつなぐオリンピック
- ・ヒロシマを知る
- ・ユニバーサルデザインの視点から、自由学園を見てみよう！
- ・世界のどこに線を引く？
- ・共に生きるためのデザイン(仮)
- ・民主的な社会をつくるには？
- ・声なき声を聴く
- ・社会くうかんと公共性について考えよう
- ・SDGsってなんだろう？

【2022年度】

- ・環境問題は足元の身近なところから

- ・校舎と私たち
- ・色材のエコロジー ベンガラ・紺青と貝紫
- ・ものの材質と構造を考える
- ・学園の水道光熱費から考える環境問題
- ・共に生きるためのデザインとは
- ・なぜCMは炎上したの？
- ・「表象文化論」特論
- ・杉原千畝
- ・「自由主義」について・近代の超克
- ・優生保護法賠償訴訟が私たちに問いかけるもの
- ・ワタシとアナタをつなぐ美術の可能性
- ・オリンピック・パラリンピックに学ぼう
- ・自由学園×学園町 ～地域とつながろう～
- ・となりのイスラム～隣人の半径を広げるために～
- ・地球のためにできることってなんだろう
- ・「ヒロシマを知る・考える」
- ・声なき声を聴く
- ・共生学のきほんのき！？
- ・(続)君の100円が世界を変える
- ・富士山が噴火したらどうなるの？
- ・自分の「ことば」が誰かの「ことば」になる時—世界中のスピーチと声の歴史を考えよう—
- ・2024年度の学校を作ろう！～ルールメイキング2022
- ・多様性を考える

プロジェクトについて

全ての講座の受講とシェアの時間が終了すると、プロジェクトの段階に突入した。まずは教員が社会課題と向き合うためのプロジェクトを発足させ、生徒は好きなプロジェクトを選択して、活動を行った。プロジェクトでは男女や学年の垣根を超え、それぞれが興味のあるプロジェクトを実行することとなった。プロジェクトの成果は3月に行われる共有の会で発表された。2021年度はプレゼンテーションのみの発表だったが、2022年度は発表のスタイルも多岐にわたり、展示やワークショップ、カフェなど、様々な形で発表がなされた。

以下は、実際に発足したプロジェクトである。

2021年度は全部で15のプロジェクトが発足した。

【2021年度】

- ・生活団の子どもたちが楽しめる企画を提案・実行しよう！
- ・日本における難民問題

- ・学園をとび出そう～自由学園×学園町～
 - ・現代から戦争について考える
 - ・SDGs in Action 好奇心全開で循環型社会を目指し、できることから地球と未来を守ろう！
 - ・学園内にピクトグラムを設置しよう
 - ・染色をやってみよう
 - ・「反コミュニケーション入門1.02」×「身近な人権～”人権侵害かも？”校則・ルール of 探索」
 - ・高齢者との共生 誰にでも訪れる人生のfinale 期を豊かに過ごすために
 - ・WATS ～わたしがあなたとつくる社会～
 - ・「わたし」から世界へ～平和を創り出すことば～
 - ・君の100円が世界を変える(続)
 - ・アーティストとして、身近な社会を見てみよう！
 - ・性の多様性に関する研修会のプログラム開発
 - ・オリビズムを体現しよう
- 2022年度からは、高等科1年生も共生学に加わったため、プロジェクト数を18に増やして実施された。

【2022年度】

- ・学園の木の枝で色々作ろう
- ・私たちのコンビニ
- ・地球にやさしい空間を考えよう
- ・学園の森林づくりの今後をみんなで考えよう！
- ・知っている気になっていませんか？ごみ問題
- ・絵具を作ってみよう！
- ・脱成長のプログラムとしてのコンポスト
- ・私たちの「あたりまえ」ってなんだろう。
- ・子どもたちが安心して幸せに暮らせる社会の在り方を探求しよう！
- ・ラップでWATS！
- ・平和を考える —多摩地域の戦争遺跡から学ぶ—
- ・「システム思考」を学ぶ
- ・展覧会をつくろう
- ・(続)君の100円が世界を変える
- ・多様性のある社会をデザインする～国を超えた共生を実現しよう～
- ・スポーツを通してお互いを理解し平和な社会をつくる
- ・キワニス(みんな一緒に集まる)活動をしてみよう
- ・共生学カフェをプロデュースしよう

今後の展望

2022年度は中等科1年生から高等科1年生までが共生学を学んでいるが、2023年度は高等科2年生まで、2024年度は高等科3年生までの中高6学年が学ぶことになる。2023年度以降は、講座をまわるグループや、シェアの時間のメンバーを男女別ではなく共修とすることを考えている。

また、高等科2年生からは学内のプロジェクトではなく、学外に飛び出したインターンシップを予定している(「飛び級社会人」)。これは、今まで自由学園の共生学で学んできたことを実社会でどのように活かせるかを学ぶためである。2022年度はトライアルとして有志の生徒が実際に学外でインターンを行い、3月の共有の会で発表を行った。このインターンを2023年度は高等科2年生全員で、2024年度以降は高等科2年生と3年生全員で行う予定である。

2021年度から本格的に始まった共生学だが、2024年度には全学年で学ぶこととなる。共生学は既に完成されたものではなく、これから様々な変化を遂げていくことが予想される授業である。常に変化する社会状況に合わせて、どうすればそれらを解決できるのか、考えるだけでなく行動に移すまでを踏まえて、授業を構成していきたい。